



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕

〒165-0027 東京都中野区野方 1-55-1 天門教会内 日本クリスチャン・アシュラム連盟 振替口座 東京 00100-1-4558
事務局メール・TENMONKYOUKAI70@outlook.jp TEL・03-3385-7491 HP <http://ashram.jp/>

イエスを愛し主の証人として生きる

連盟理事 連盟事務局 日本基督教団 天門教会
牧師 貴村かたる使徒の働き 1 章 1 節～11 節
・神を愛する者にだけ、主の真理は見える

使徒の働きは、ルカが「神を愛する人」を意味するテオピロに宛てて書かれています。ルカは、神を愛する者には神の御声が聞こえ、

主の言葉が心に届くことを知っていました。主イエスは「わたしの肉を食べ、血を飲みなさい」と言われました。それは、単に知識として主を知るのではなく、「主を内に受け入れ、体験し、主と共に生きること」を意味します。

現代の教会にも、御言葉を「聞くだけで終わる人」と「食べ、飲み、体験する人」との違いがあります。神を第一に愛する者にだけ、聖霊は豊かに働かれます。アブラハムがイサクよりも神を深く愛したように、私たちも家族よりも、自分自身よりも、深く主を愛するとき、聖霊は私たちの心に証拠を与えてくださいます。神を愛する心こそ、すべての信仰の土台です。

・聖霊の証拠を持つ者だけが、イエスの証人となる

イエスは弟子たちに言われました。「聖霊があなたの上に臨む時、あなたがたは力を受け、わたしの証人となる。」(1:8)

証人とは、事実と証拠を持ち、それを証しする者です。主を体験していないなら、証人にはなれません。使徒たちは迫害の中でも「あなたがたはイエスを殺した。しかし神はその方を生かされた。私たちはその証人である」と命がけで証言しました。聖霊は神を愛し、神を歓迎する者の上に臨まれます。聖

霊に満たされた者は人格が変わられ、恐れが消え、生活が新しくされます。そしてその人を通して「イエスのうわさ」が立ち、人々が主に引き寄せられていきます。

今日の教会に最も必要なのは、この「イエスのうわさ」です。教会はイベントのためではなく、**神の力が現れ、人々が主に出会う場所となるために**建てられています。聖霊の証拠を持つ証人こそ、教会を生かす力です。

・主の再臨を待ち望みつつ、証人としてこの地で生きる

イエスは弟子たちの見ている前で天に上げられ、「あなたがたが見たと同じありさまで再び来られる」と約束されました(1:11)。教会の使命は、この再臨の約束に基づいています。主が戻って来られるその日まで、聖霊によって証人として歩む——これがクリスチャンの召しです。私たちの国は地震や災害が多く、命がいつ終わるか分かりません。だからこそ、「今」を聖霊に満たされて生きる必要があります。お金や名誉は天に持っていきません。永遠に残るのは、**聖霊に満たされてイエスを愛し、証した人生**だけです。

主は言われました。「わたしはまた来る。あなたがたは証人になりなさい。」だから祈りましょう。「主よ、私を証人として用いてください。聖霊の証拠を与え、あなたのうわさをこの地に立てさせてください。」

(結び)

神を深く愛し、聖霊に満たされ、イエスを証する人生こそ、もっとも豊かで、もっとも価値ある歩みです。主は今日も、私たちを証人として立て、聖霊の力で満たそうとしておられます。

主が来られるその日まで、喜びをもって証人として歩みましょう。アーメン

霊想 贖い、愛、臨在

イザヤ書 43 章 1 ~ 5 節

日本基督教団 新宿西教会
牧師 深谷春男



10 年前、66 歳の誕生日の前夜、すなわち、2016 年 2 月 3 日の夜に大変恵みを経験致しました。

1. 恐れるな！ わたしはあなたを贖った。(罪の贖い)

1 節に「恐れるな、わたしはあなたを贖った」とあります。ここには、人間の罪を贖う神様のメッセージがあります。ここでは神の愛が、「罪の赦し」という形でその愛の本質を表現しています。旧約学会の会長をされた関根正雄は「人間の最も深い所で必要としているのは罪の赦しだ。人間はギリシャ的な真・善・美を求める存在と言われるが、もっと深いところで求めているのは、罪の赦しという出来事だ」とよく本に書いています。絶対的な神の御前に立つ時、私どもは自分の罪を思わざるを得ないのです。その最も魂の深い所で、自分の罪を贖ってくださるというお方なしに、喜びや感謝を持って生きることは私どもにはできません。

私にとって 76 年の人生で一番大きな出来事は何だろうか？ それは言うまでもない、19 歳の時の洗礼の日！ 1969 年 12 月 21 日。あの日、私は主イエスの十字架の血潮で贖われ、新しい日が始まった。練馬開進教会、市川忠彦牧師、深い罪意識、あの洗礼の時の背中に入ってきた冷たい水、瞬間的に感じた主の贖いの血潮、あふれて止まらなかった涙、洗礼の後に駆け寄ってくれた兄弟姉妹。その夜のクリスマス会の深い喜び、自分のアパートに踊りながら帰りました。「恐れるな！ わたしはあなたを贖った。」これ以上の福音はありません。

2. 恐れるな！ わたしはあなたを愛している。(神の愛)

4 節に「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」とあります。これは新改訳聖書の方が率直で分かりやすいと思いますので、新改訳聖書を引用しました。英語の訳では I love you となっています。当時のユダヤ人はバ

ビロン捕囚という出来事の最中にあり、バビロニア帝国の奴隷となっていたのです。自分自身の罪と破れに奴隷状態となり、自己嫌悪のただ中にいたのが当時のイスラエル人でした。彼らは疲れ果てていました。どうしても愚かな自分に価値を見出すことができないのです。しかし、そのようなイスラエルに神は語られました。「わたしはあなたを愛している。」「わたしの目には、あなたは高価で尊い。」この無条件の愛、罪に苦しみ傷ついたわが子を、命を懸けて愛おしみ愛する神の愛。この愛こそ、人に生きる勇気を与え、希望を与えるものなのです。

3. 恐れるな！ わたしはあなたと共にいる。(神の臨在)

5 節に「恐れるな、わたしはあなたと共にいる」とあります。ここにはバビロニアからユダヤ故国に帰るユダヤ人の姿があります。それは川を通り、焼けつく砂漠を通り、文字通り、火の中、水の中を通過するような体験でした。その厳しい歩みの中で、神様が共にいてくださること、つまり、臨在の支えの中で約束の地にまでたどり着いたのでした。神の臨在が彼らの生涯を支えたのです。

人間は弱く愚かです。父なる神のご慈顔と共にあること、神の臨在の平安なくして、喜びの輝く人生など考えることができないのです。

兄弟姉妹！ 主イエスは、私どもの此岸から、彼岸に橋渡しをしてくださる唯一の方なのです。ハレルヤ。(アシュラム誌 197 号 2019 年 10 月発行「霊想」を再掲載)

アシュラム連盟全国理事会報告

昨年 11 月 10 日、全国理事会をインターネット Zoom において、理事 8 名、オブザーバー 1 名の計 9 名で開催しました。議事は次の通りでした。

- 1 横山勲理事長よりピリピ 1:27~29 から奨励。A 天国民として福音にふさわしい生活 B 心一つにして戦う C キリストのための苦しみも賜った
- 2 アシュラムセンター開設 50 周年記念事業に、理事長参加およびセンターへの支援金について *理事長が代表して参加する *要請された支援金をお送りする
- 3 アシュラム連盟の今後の運営について意見交換 *現在活動中の関東(6か所)、関西、九州および函館の現状 *かつてアシュラムを開催していた教会等を再発掘する *連盟とアシュラムセンターとの助言者相互交流が進み、今後の歩みのために主幹牧師・榎本恵師、連盟理事との交わりを深めていく(京浜アシュラムに助言者として島師が参加。次年度九州アシュラム助言者として榎本師が予定されている)

各地アシュラム報告

九州アシュラムの報告

九州アシュラム委員長 牧師 岡山敦彦



コロナの期間中、九州アシュラムは中止していましたが、ここ 2 年は続けて開くことができました。今年は、佐賀県鳥栖市の日韓交流文化センターを会場に開き、参加者は 9 名でした。今後は継続してこの会場を使用していくことにしています。

日程は 9 月 14 日(日)午後 5 時から 15 日(月)午後 4 時 30 分まででした。助言者に深谷与那人牧師(京都復興教会)をお迎えし、福音の時を 2 度持ち、説教題は「闇の後に訪れる暁」と「天国の鍵を使う」でした。説教の後には、教えられたことを分かち合う時を持ちました。静聴の時は各自で聖書を読み、教えられたことを分かち合いました。アシュラムの醍醐味は何といても「連鎖祈禱」の時間です。午後 10 時から翌朝 5 時まで途切れることなく 1 時間静かに聖書を読み、祈りの課題を祈禱ノートに書きました。

前もってアシュラムの開催日をお知らせしていますが、参加者が減少傾向にあります。次回こそはもっと多くの方が参加されることを願っています。講師はアシュラム連盟の榎本恵師にお願いしています。

第 58 回 関西アシュラムの報告

日本基督教団 香櫨園教会 牧師 宮本幸男

9 月 15 日(月・祝)に 16 教会・29 名が大阪クリスチャンセンターに集まって開催されました。助言者に、志木教会牧師で東京聖書学校副校長でもある横山基生先生をお迎えし、「キリストへの明け渡し」との主題のもと、フィリピの信徒への手紙 3 章 1~11 節から「キリストを誇る」、同 3 章 12~21 節から「キリストに捕らえられた恵み」と題したメッセージの中で導きをいただきました



た。また、日本アシュラム連盟前理事長の横山義孝先生を偲んで、追悼の時も持つことができました。

それぞれの参加者は、まず霊的に自分が何を必要としているかを求める中で、そのニードに主ご自身が励ましと必要な力を与えてくださる経験をさせていただきました。全ての問題が解決されたわけではありませんが、キリストに自分自身を明け渡すことの中にある喜びが、私たちに無限大に開かれていることを発見させていただいた恵みに感謝いたします。

東京新生教会アシュラム 9 月 21 日(日)

日本基督教団 東京新生教会 牧師 佐々木千沙子



アシュラム参加者は 16 名、祈りの細胞は 4 人一組合計 4 組で、前日の連鎖祈禱から始め

翌日は 9 時半の開心の時から静聴の時、そして主日礼拝、祈りの細胞、昼食、祈りの細胞、福音の時、充滿の時まで。終了は 14 時とした。

助言者の小林則義協力牧師は「イエス・キリストに生かされる」と題して、詩編 23 編と 2 コリント 4 章 7-15 節のみ言葉から語られた。

4 月 16 日に召天された故横山義孝師は「アシュラムにおける教会形成」をされてきたので、アシュラムの恵み深さを知っている方々は前向きである。しかしまだその良さを分らない方も、今年は横山師の遺産を受け継ぐ気持ちで昨年より多く参加できたことが良かった。それにしても、前夜の連鎖祈禱参加者は緊張感で確かに寝不足となった。高齢者は身体も疲れる。昼食と終了時間を守ることに気を配った。内的にはみ言葉を反すうしながら、み言葉の力を受け、主イエス様を心の王座にお迎えし、一同聖霊に満たされた。サタンは神の子たちが聖霊に満たされることを嫌い妨害するが、主は「私を苦しめる者の前で、私に食卓を整えられる。私の頭に油を注ぎ私の杯を満たされる。詩編 23 : 5」のとおりである。

高齢化する教会を憂えることなく「イエスは主である」とただ主にのみ信頼し、主を讃えて歩む私達である。「命あるかぎり恵みと慈しみが私を追う。私は主の家に住もう。日の続く限り。詩篇 23 : 6」

第 60 回関東アシュラムに参加して

日本基督教団 東京新生教会 信徒 松田 俊



9 月 22 日～24 日に、箱根で開催された関東アシュラムに参加させて頂きました。

今回、福音の時の助言者を務められた元茅ヶ崎恵泉教会牧師の柏明史師と私とは、かつて勤め先が同じでありました。約 40 年前にはガラスの仕切り 1 枚で、同じフロアで働いたこともありましたが、主のご摂理を感じざるをえず、この機会にぜひともお話をお聞きしたいと思っていました。

また、去る 4 月 16 日に天に凱旋された横山義孝師のアシュラムに対する思いを、東京新生教会員として、わずかながらでも受け止めさせて頂きたいと思っていました。

以上から、今回、関東アシュラムに初めて参加させて頂くことになりました。

柏師は、福音の時(1)で、エレミア書、ホセア書から「愛に苦しめる主」と題して、はらわたがもたえるほどの神の愛、十字架上で示された究極の愛を、福音の時(2)ではⅡコリントより「主の愛に迫られて」と題して、キリストの愛に迫られ、「イエスは主である」と告白し、それに応答する人生をと、熱く語って下さいました。聖霊がその場を覆って下さり、一同、主への愛、救霊への思いを新たにされました。

また、参加者の方々の真実な証し、主への熱き思い、救霊への思いには圧倒され、なまくらな自分の信仰を思い知りました。

第 17 回函館栄光キリスト教会ミニ・アシュラム

函館栄光キリスト教会 牧師 佐々木雄次

2025 年 10 月 13 日(月・祝)、横山基生先生を助言者にお迎えし、「神の聖なる民として生きる」(Ⅰペトロ 2:9)を主題に、27 名(当教会 16 名、他教会 11 名)が参加しました。

これまで助言者を 2 度引き受けてくださった先生はいらっしゃいますが、2 年連続というのは横山先生が初めてです。ご多忙の中おいでくださった先生に心から感謝いたします。

私たちの教会アシュラムは再開されてから 17 年経ちましたが、集われた方の中には、1971 年に道南地区アシュラムが開始された時以来、アシュラムに集われている方が何名かいらっしゃいます。紆余曲折があっても、アシュラムを通して主にある交わりが続いていることを感じる者です。出席される方は少しずつ変化していますが、主の前に心を開いて祈り合う恵みは変わらない。つくづくそう思います。「恵み深い主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。」(詩編 136:1)



- アシュラム予告**
- 第 57 回城北アシュラム
2026 年 2 月 11 日(水祝)
会場・市川クリエイションセンター
福音の時・深谷春男師
 - 第 7 回志木教会アシュラム
2026 年 2 月 28 日～3 月 1 日(土・日)
助言者・横山基生師
 - 第 7 回原ビジョン教会アシュラム
2026 年 3 月 20 日(金祝)
助言者・貴村かたる師
 - 第 57 回九州アシュラム
2026 年 9 月 20 日～21 日(日・月祝)
助言者・榎本忠師
- その他、予定されているアシュラムを事務局にお知らせください。

1. キリストへの明け渡しと服従
2. 御言葉への静聴と立証
3. 聖霊の導きと充滿
4. 教会への奉仕と伝道
5. 神の国の体験と献身

編集後記

年 4 回のアシュラム誌を通してみなさんと交わりが持てたことを心から感謝します。昨年秋には各地でアシュラムが開けて心から嬉しく思います。やっとコロナから解放されてアシュラム集会が開催され感謝です。コロナで教会の働きも様変わりしてきました。日本クリスチャン・アシュラム連盟も経済的困難さを覚えています。昨年は経費節約のため、インターネット Zoom で全国理事会を開きました。今年もよろしくお願いします。(岡山敦彦)